

政策情報学会

第 11 回研究大会



2015 年 11 月 21 日 (土)

会場 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

政策情報学会 第 11 回研究大会 開催にあたって

テーマ：地域資源の利活用と政策情報

開催の趣旨

2014年9月3日、安倍晋三首相は第二次安倍改造内閣の目玉ポストとして地方創生担当相を新設し、その任に石破茂氏をあてた。これに象徴されるように、こんにちの日本では地方創生が焦眉の課題となっている。

振り返れば、日本の地域における産業政策は1990年ごろを境に大きく変化したとされる。つまり、1990年ごろまでのそれは、国の産業立地政策の受け皿としての企業誘致政策や中小企業政策の実施、といった国の「実働部隊」としての役割が主であり、とくに市町村においては自ら地域産業における課題を発見し解決のための政策を立案・実施するという主体的な役割が極めて不十分であった。しかし、1970年代の石油危機を契機として注目されるに至る量的豊かさから質的豊かさへの転換、中曽根内閣による国鉄分割民営化に代表される小さな政府への転換、さらにはグローバル化やIT技術の進歩を背景として、1990年代からは地場産業や一次産品、さらには歴史・文化・自然など地域資源の利活用が模索されるようになる。

なかでも大きな変化は、地域資源を活かした内発的・自立的な地域活性化が求められ、地方自治体をはじめとして地域住民、NGO/NPOといった市民セクター、あるいは企業などの多様なアクターが地域の活性化に取り組むこととなったことである。これにより、地域に多様なアクターによる「生産的な相互作用の場、つまり「仕組み」が必要となり、アカデミアの責務としてはその「仕組み」、つまりガバナンスの側面に焦点をあてることが求められている。しかし、このガバナンスに関する研究では、具体的に、①誰が（リーダーの資質）、②どんなリーダーシップで（指導様式）、③どのような組織形態（共治・協働システム）で、④どのようなまちづくり政策（ビジョン内容）を、⑤どんな事業活動（プログラムとマネジメント）で、⑥どんな成果（業績評価）を挙げているのか、についての共通な一般化モデルはまだ達成されていないと言って良い。

そこで、本研究大会では、基調講演およびパネルディスカッションにおいて、コミュニティ・ガバナンス、および、地域資源の利活用、の分野で幅広い業績や経験をもつ方々をお招きし、共通テーマ「地域資源の利活用と政策情報」について議論を深めたい。基調講演とパネルディスカッションについては関西学院大学産業研究所との共催事業とし、当該問題についてのフロアを交えた活発な議論を期待するものである。

政策情報学会 第11回大会実行委員長
関西学院大学産業研究所副所長/准教授
市川 顕

第 11 回政策情報学会 研究大会プログラム

2015 年 11 月 21 日 (土)

受付	9:00~16:30	G 号館 203 教室
大会参加費：1,000 円		
開会式	9:30~9:40	G 号館 202 教室
開会挨拶：市川 颯 (大会実行委員長：関西学院大学産業研究所) 会長挨拶：中道壽一 (政策情報学会会長：北九州市立大学名誉教授)		
研究発表 (研究大会賞選考報告)	9:40~11:40	G 号館 205 教室
1 人あたり 発表 15 分、質疑 5 分 ① 9:40~10:00 ② 10:00~10:20 ③ 10:20~10:40 ④ 10:40~11:00 ⑤ 11:00~11:20 全体質疑 11:20~11:40	座長：市川 颯 (関西学院大学産業研究所) 報告①：鈴木羽留香 (立命館大学 OIC 総合研究機構) 「トータルでの洞察過程可視化に対する地域支援に関する一考察：創造的インパスへと繋がり得る外部刺激を齎す地域循環のための可視」 報告②：加藤久明 (総合地球環境学研究所) 丸山誠史 (日本経済大学大学院リスクマネジメント研究所) 矢尾田清幸 (日本経済大学大学院リスクマネジメント研究所) 仲間妙子 (日本経済大学大学院) 「地域当事者による水環境診断：フィリピン・リザール州・アンゴノ市における地域社会との協働から」 報告③：笠井賢紀 (龍谷大学) 「地域内分権組織研究への生活史法によるアプローチ：甲賀市希望ヶ丘学区自治振興会を事例として」 報告④：柳井妙子 (岐阜を想う会) 「地域活性化のための拠点に関する研究：市民団体「岐阜を想う会」の事例」 報告⑤：高木昭美 (芝浦工業大学) 「現代英国の地方自治最新事情：大ロンドン市 (GLA：Greater London Authority) とウエストミンスター特別区 (City of Westminster) の現地調査から」	
研究発表審査	11:40~12:00	G 号館 204 教室
昼食休憩		
第 42 回理事会	12:00~12:50	G 号館 207 教室
第 12 回定期総会	13:00~13:30	G 号館 207 教室
司会：竹下 賢 (政策情報学会副会長：関西大学法科大学院) ①2015 年度事業報告・収支決算報告 ②2016 年度事業計画・収支予算案 ③その他		
休憩		
基調講演		
13:40~13:50	テーマの趣旨説明・司会：中道壽一 (政策情報学会会長：北九州市立大学名誉教授)	
13:50~14:10	基調講演①： 市川 颯 (関西学院大学産業研究所) テーマ：「地域資源の利活用と政策情報学」	

14:10～15:10	基調講演②： 山本 啓（東北大学名誉教授） テーマ：「地方再生に果たすネットワーク型コミュニティの情報フロー」	
15:10～15:20	質疑応答	
休憩		15:20～15:30
パネルディスカッション		15:30～16:50 G号館 202 教室
<p>テーマ：「地域資源の利活用と政策情報」</p> <p>コーディネータ：市川 颯（関西学院大学産業研究所）</p> <p>パネリスト：話題提供 10分×4名</p> <p>① 朽木 量（船井総合研究所） 「一関市における伝統もち食文化を通じた地域ブランド化の試み」</p> <p>② 松原真倫（(株)FoundingBase キーマン（津和野町町長付）） 「消滅可能性都市における地域資源と政策情報の活用策 一島根県津和野町を事例に一」</p> <p>③ 藤原直樹（大阪市立大学） 「欧州におけるスマートスペシャリゼーションとクラスター連携」</p> <p>④ 朽木 量（千葉商科大学） 「政策情報学から見た地域文化資産の利活用」</p>		
研究大会賞授与式・閉会式		16:50～17:00 G号館 202 教室
<p>研究大会賞授与：中道壽一（政策情報学会会長：北九州市立大学名誉教授）</p> <p>閉会挨拶：市川 颯（大会実行委員長：関西学院大学産業研究所）</p>		
懇親会		17:10～18:30 関西学院会館 1階「翼の間」
懇親会費：4,000 円		

【大会および懇親会の出欠連絡】

○11月4日(水)までにお申し込みください。

(出欠フォーム) 学会サイト内の研究大会出欠フォームをご利用ください。

(郵送の場合) ①所属、②氏名、③研究大会の参加有無、④懇親会の参加有無、⑤定期総会の参加有無(一般会員のみ)を記入の上、学会事務局までご連絡ください。

<郵送先> 〒272-8512 千葉県市川市国府台1-3-1

千葉商科大学7号館2階気付 政策情報学会事務局関東支部 宛

【大会参加費および懇親会費】

○大会参加費:1,000円 ○懇親会費:4,000円

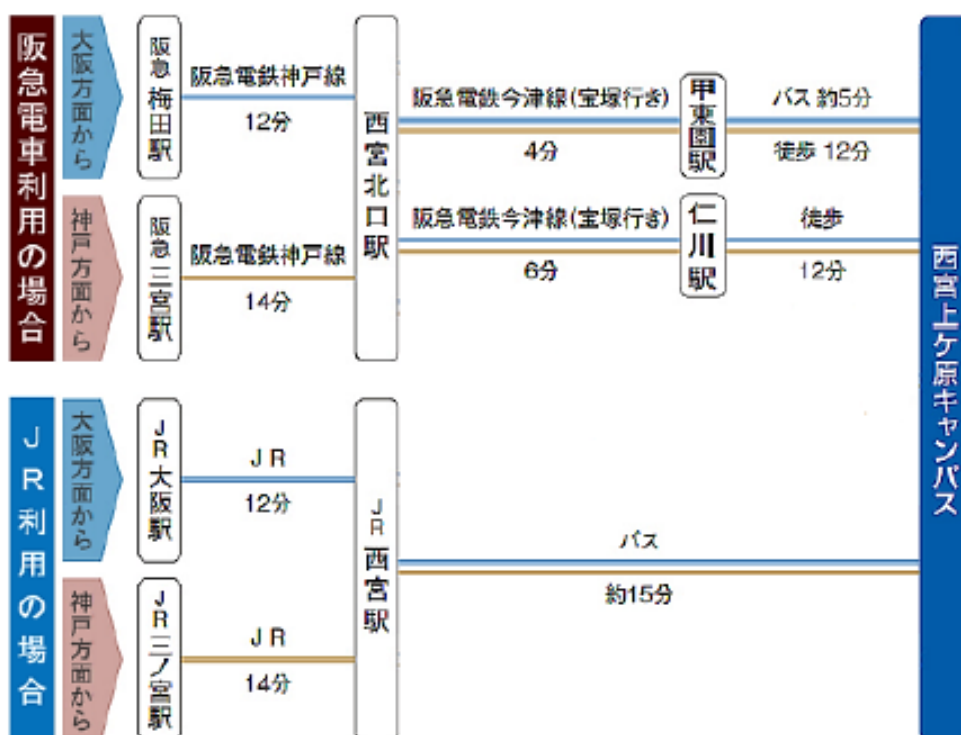
※一般会員、学生会員、非会員共通です。

※関西学院大学所属(非会員)の学生は無料です。

※研究大会当日、受付にてお支払いください。

【会場へのアクセス】

○主要駅から関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスへのアクセス



☎662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155

○会場（G号館）および懇親会場（関学会館）へのアクセス



※バス停

【昼食場所】

会場西側の新学生会館 1階および地下 1階に学食があります。

また、同 1階に生活協同組合、G号館 1階にコンビニと SUBWAY があります。

連絡先

第 11 回研究大会実行委員長

関西学院大学産業研究所 市川 顕

E-mail : akira-i@kwansei.ac.jp